漢字の読み書き・表現・古文『宿直草』

北海道教育委員会　令和７年度公立高等学校入学者選抜　国語

北海道教育委員会　二次利用条件

対象ページを抜粋し、出典表紙を追加。

https://www.koukou.hokkaido-c.ed.jp/gakuryokukensa/r07gakuryoku/r07nyuusi_kokugo.pdf

https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/SecondaryUse.html

一

次の問いに答えなさい。（配点　28）

問一　(1)、(2)の――線部の読みを書きなさい。

(1)　塩分を過剰にとる。

(2)　姉が私の言葉を遮る。

問二　(1)、(2)の――線部を漢字で書きなさい。

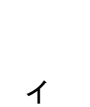
(1)　国際会議の話題がソクホウで流れる。

(2)　子猫が足元にヨってきた。

問三　(1)、(2)の漢字と同じ部首が使われている行書で書かれた漢字を、それぞれ**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

(1)　煮

ア　

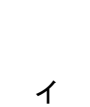
イ　

ウ　

エ　

(2)　趣

ア　

イ　

ウ　

エ　

問四　次の文の［　　］に当てはまる表現として最も適当なものを、**ア**～**エ**から選びなさい。

彼は誰にでも優しい。ところが、［　　］。

ア　自分自身に対してはとても厳しい

イ　他人の立場で考えることができるからだ

ウ　多くの人から感謝されている

エ　思いやりのある行動ができるということだ

問五　次の文章を読んで、(1)～(3)に答えなさい。

ある人、五月雨の晴れ間に、里づたひの道をゆく。月は浮雲の薄きに包まれ、芝生露敷いて、貫きとめぬ[1]玉の数は、崑山もかくやとおぼしきに、眺めもいとど長き江を南向きてゆく。芦もまばらに刈る沢のあやめも分かぬところに、堤を沿ふて白犬あり。礫をもつて追へばひたもの逃ぐ。静かにゆけば犬も静かに、止まれば犬も止まれり。かくて追ふと思ひつつ十四、五町ゆく。一声ほゆる事もなし。それより江の堤には沿はず、我ゆく道は横なりしに犬見えずなる。こはいかにと又元の方へ戻りて見れば犬あり。[2]不思議の思ひをなすに、何の別の事もなし。濁り水に曇りし月の影、映ろひしなり。犬と思ひしときは月と見えず。月と合点して、なにほど犬に見なさんとせしかども、犬とはかつて見えざるなり。一念の趣くところ異なものにて、十四、五町迷へり。知りて後は、迷ふて見んと思ひしかども、迷はれずと語れり。

（「宿直草」による）

（注）　崑山――中国の伝説上の山。
　　町――長さの単位。一町は約一〇九メートル。

(1)　――線1「玉」とは何のことですか。最も適当なものを、**ア**～**エ**から選びなさい。

ア　五月雨の晴れ間
イ　薄雲がかかった月
ウ　芝生の上の露
エ　沢に咲くあやめ

(2)　――線2「不思議の思ひをなすに」とありますが、「ある人」は、ここではどのようなことを不思議に思ったのですか。最も適当なものを、**ア**～**エ**から選びなさい。

ア　まるで崑山のような美しい景色が川に沿って広がっていること。
イ　土手沿いの道をしばらく歩く間、前を行く犬が一切鳴かないこと。
ウ　進む道を変えると姿を消した犬が、元の道に戻ると姿を現すこと。
エ　川の水は濁っているのに、月がとてもきれいに映っていること。

(3)　この文章の内容に合うものを、**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア　犬の正体が何であったのかがわかった後は、もう進むべき道を迷うことはなかった。
イ　犬だと思っていたものが月の光だとわかると、月の光は二度と犬には見えなかった。
ウ　白い犬を月の光だと見間違えるような奇妙な体験は、一途な思い込みから生まれた。
エ　道に迷ってしまったことで、伝説上の山にいるような不思議な犬に出会うことができた。